



村の小学校の子どもたち



村のお祭りの日、タムタム（アフリカの太鼓）を叩き皆が集まり、これからダンス大会の始まりです。

まず「さあ、おかけください」と椅子を勧められ、次に「ご飯を食べていきなさい」「お茶を飲んでいきなさい」「もつと喋っていきなさい」…そして、これらを断ることは大変失礼にあたるらしい。という訳で、セネガル人のお宅を訪問する時にはある意味「覚悟」が必要です。そしてもう一つ、「助け合い」の精神というのも非常に強いものがあります。イスラム教の教えにも「富める者が貧しい者に与える」という考え方があります。家族（血縁関係者）はもちろん、他人であっても困った人がいれば何とかしてあげたい！と自然に感じるようです。実際に、私もこのセネガル人の「助け合い」の精神に何度も助けられました。

初めてのアフリカ生活。文化や習慣の違い：驚くこと、感心すること、考えさせられること…今後も沢山みなさんご紹介できればと思います。それでは最後にクイズを一つ！「セネガルで一番有名な日本人とはだれでしょう？」…答え…それは多分「中田（サッカー選手）」でしょう。セネガルといえば、やはりサッカーなんですよね。ある日、村の中を歩いていたら子どもたちに声をかけられました。「ねえ、ナカタに手紙を出したいんだけど、住所を教えてください。日本人なら分かるでしょ。」ってね。

特設人権相談所開設(DV相談)

ドメスティック・バイオレンス(DV)という言葉を知っていますか？

ドメスティック・バイオレンスとは、夫やパートナー（婚約者、恋人など）親しい間柄にある男性が、女性にふるう暴力をいいます。

ドメスティック・バイオレンスは、命にかかわる危険な犯罪です。

ドメスティック・バイオレンスは、女性への著しい人権侵害です。

だれにもいえず、苦しい胸のうちはあかすことは困難なことです。しかし、その勇気を持ってください。

DV被害は、本人が話さないかぎり真実はわかりません。解決するためには、まず声に出していうこと、個人の問題とせず勇気をもって相談することです。相談しても解決にならないと思わず、相談することによって、事態を客観的にみることができ、解決の糸口を見つける可能性もでてきます。

相談は、無料で秘密は守られます。

当日は、無料電話相談も行っています。

とき 11月25日（木）10時～15時

ところ 松前総合文化センター2階 ふるさと学習室

電話番号 985-1313（代表番号）

相談員 人権擁護委員

問い合わせ 役場町民課住民係 ☎985-4105